

第 1 章 計画の概要

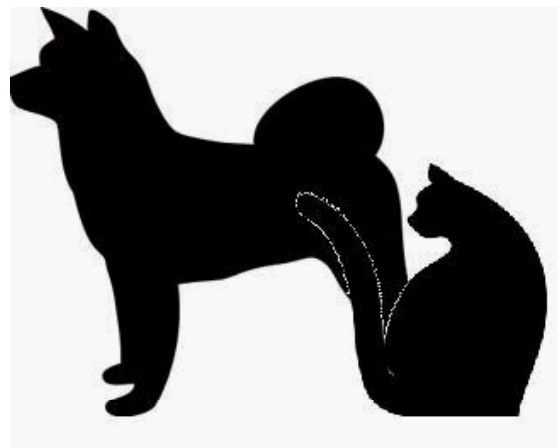
第 1 節 計画策定の趣旨

少子高齢化、核家族化の進行に伴い、動物（ペット）の存在も単なる愛玩目的に留まらず、伴侶動物として、家族の一員に迎え入れられるようになってきました。

また、人びとの価値観の多様化やライフスタイルの変化に伴い、犬やねこのような身近な動物に加え、今まであまりなじみのなかった外来動物までもがごく普通に飼養されるようになってきました。

こうした動物を取り巻く状況の変化に伴い、行政に寄せられる相談や要望も多様かつ複雑なものとなってきています。今後、動物を巡る諸問題を解決していくには、飼い主や事業者など動物と直接関わりをもつ人びとだけでなく、地域の理解や協力が不可欠であると言えるでしょう。

埼玉県では、動物に関わる全ての人びとが互いに理解を深め、人と動物が共生できる社会の実現を目指しています。その方向性を示すものとして、このたび、埼玉県動物愛護管理推進計画（以下「本計画」という。）を策定しました。



第2節 計画の基本的性格

本計画は、動物の愛護及び管理に関する法律（以下「動物愛護管理法」という。）第5条に基づき環境大臣が定める基本的な指針（以下「基本指針」という。）に即して、動物愛護管理法第6条に基づき埼玉県内における施策を推進するために策定するものです。これにより、動物の愛護及び管理に関する施策の長期的な目標と全体像を明らかにし、県民との間に共通認識の形成を図るものです。

なお、本計画の実施対象区域については、原則として政令市（さいたま市）及び中核市（川越市）を含みます。

第3節 計画の期間

本計画の期間は、平成20年（2008年）度から平成29年（2017年）度までの10年間とします。

第4節 計画の見直し

状況の変化に適時・的確に対応するため、本計画策定後の施策の進捗状況や目標の達成状況について検証等を行いながら、策定後概ね5年目に当たる平成24年（2012年）度を目途として、本計画の見直しを行います。



参 考：国の基本指針（概要）

1 動物の愛護及び管理に関し実施すべき施策に関する基本的な方針

- (1) 国民的な動物の愛護及び管理に関する活動の盛り上げ
 - ・国民の間における共通した理解の形成
 - ・幅広い層に対し自主的な参加を促すことができる施策の展開
- (2) 長期的視点からの総合的・体系的アプローチ
 - ・国民のライフスタイルや価値観等の在り方に深く関わる性質上、施策の効果や結果がすぐには現れにくい
- (3) 関係者間の協働関係の構築
 - ・適切な役割分担の下に、関係者のネットワークが国及び地域のレベルにおいて重層的に作られていくようにする
 - ・関係者間相互の共通認識の形成がしやすくなるように、施策の目標及びその目標達成のための手段等については、できる限り定量的かつ客観的な内容を備えたものとする
- (4) 施策の実行を支える基盤の整備
 - ・動物愛護推進員の委嘱の推進
 - ・動物愛護団体、業界団体等の育成支援
 - ・動物愛護管理施設の拡充
 - ・調査研究の推進等による（専門的）知見の拡充

2 動物の適正な飼養及び保管を図るための施策に関する事項

- (1) 適正飼養の推進による動物の健康と安全の確保
 - ・不妊去勢措置の推進
 - ・安易な飼養の抑制
 - ・返還、譲渡の推進
 - ・適正な飼養方法、禁止行為の周知徹底

引取り数を半減

殺処分率の減少

遺棄・虐待の防止
- (2) 動物による危害や迷惑問題の防止
 - ・動物の愛護と管理の両立を目指すことのできるガイドライン等の作成
- (3) 動物取扱業の適性化
 - ・利用客に対する業者責務（標識掲示、事前説明等）の周知徹底
 - ・優良業者の育成策を検討し、業界資質の向上を図る

3 動物の愛護及び管理に関する普及啓発に関する事項

(1) 普及啓発

- ・動物愛護週間行事や適正講習会等の実施
- ・各種普及啓発資料の作成、配布等による教育活動や広報活動等の実施

(2) 所有明示(個体識別)措置の推進

- ・当該措置の必要性に関する意識啓発
- ・個体識別手段の普及のための基盤整備

4 動物の愛護及び管理に関する施策を実施するために必要な体制の整備(国、関係地方公共団体、民間団体等との連携の確保を含む。)に関する事項

(1) 人材育成

- ・担当職員の専門的な知識、技術の習得に対する支援
- ・協議会の設置、推進員の委嘱推進
- ・官民連携事業の推進

(2) 調査研究の推進

- ・全国、地域の各レベルにおいて連絡協議会を設置し、行政機関と調査研究機関との連携体制の整備を図る
- ・調査研究成果等に係る目録の作成

5 その他動物の愛護及び管理に関する施策を推進するために必要な事項

(1) 実験動物の適正な取扱いの推進

- ・「3R」の原則や実験動物の飼養保管等基準の周知
- ・*3R：苦痛の軽減(Refinement)、代替法の活用(Replacement)、使用数の削減(Reduction)

(2) 産業動物の適正な取扱いの推進

- ・産業動物の性格に応じた動物愛護管理の必要性に関する普及啓発

(3) 災害対策

- ・地域防災計画等における動物の取扱い等に関する位置付けの明確化
- ・動物の救護等が適切に行える体制の整備
- ・逸走防止や所有者明示等の所有者責任の徹底